

## 2013年4月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、ベーリング海付近でブロッキング高気圧が形成された。東アジア北部はトラフ（負偏差）に覆われた。これに対応して、偏西風が南に蛇行し、中国北東部や日本付近には寒気が流入した。太平洋から北米にかけては偏西風の南北蛇行が大きく、アラスカや米国中部付近では南に蛇行した。これに関連して、アラスカから米国中西部では寒気が流入し、低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、インド洋東部から太平洋西部で平年より活発、日付変更線付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半にインド洋から太平洋西部を東進した。対流圏下層の赤道域では、インド洋で西風偏差、太平洋西・中部では東風偏差だった。対流圏上層ではユーラシア大陸南部で亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンとなり、南シナ海付近で高気圧性循環偏差が明瞭だった。南方振動指数は+0.3だった。

### 世界の天候

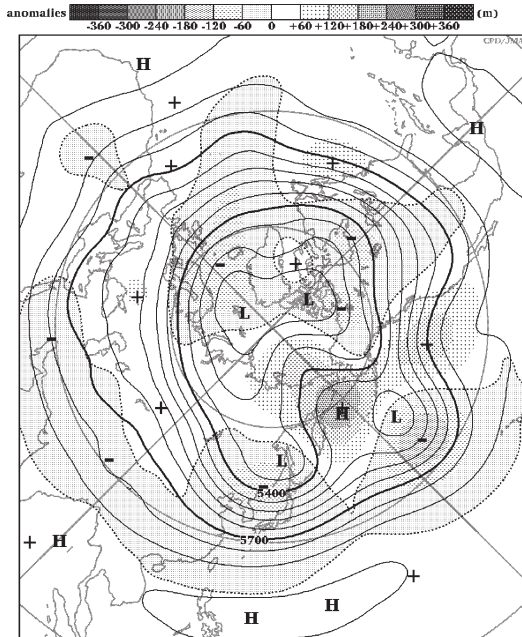
2013年4月の世界の月平均気温偏差は+0.11°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、10番目に高い値となった。4月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.72°C/100年（速報値）である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中国北東部及びその周辺では異常低温となった。
- アラスカ～米国中西部で異常低温、米国中部では異常多雨となった。
- ヨーロッパ南東部では異常高温となった。

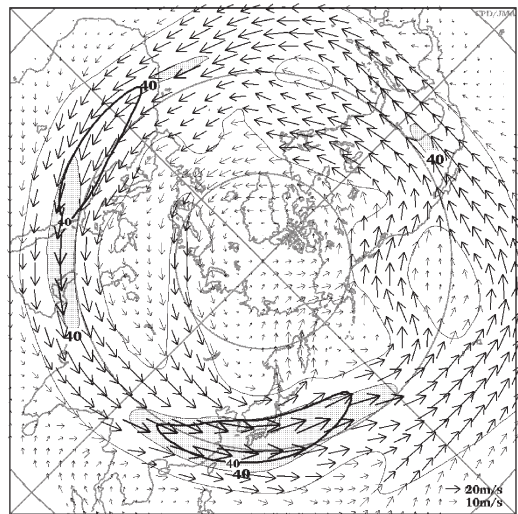
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

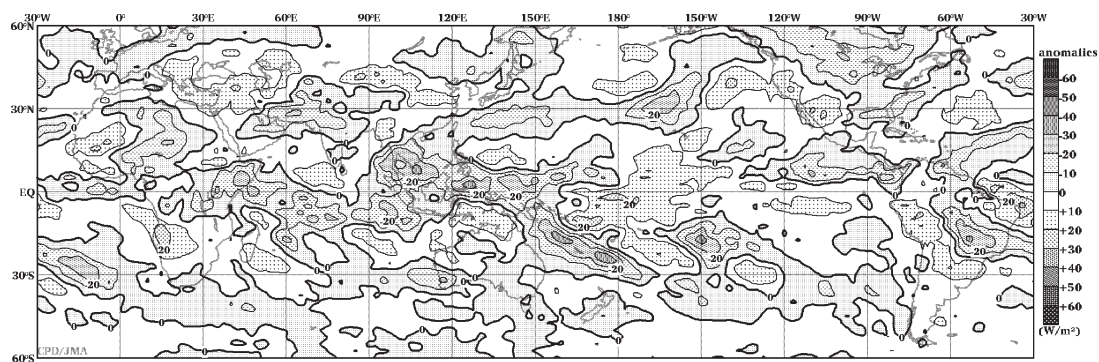


2013年4月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差  
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。

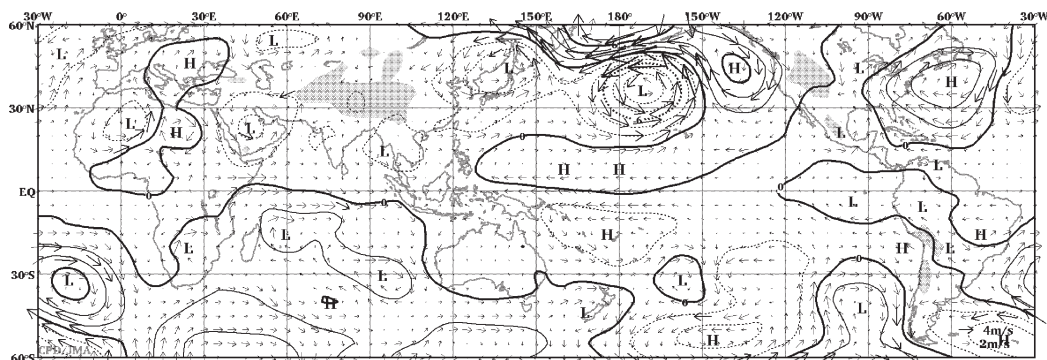


2013年4月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

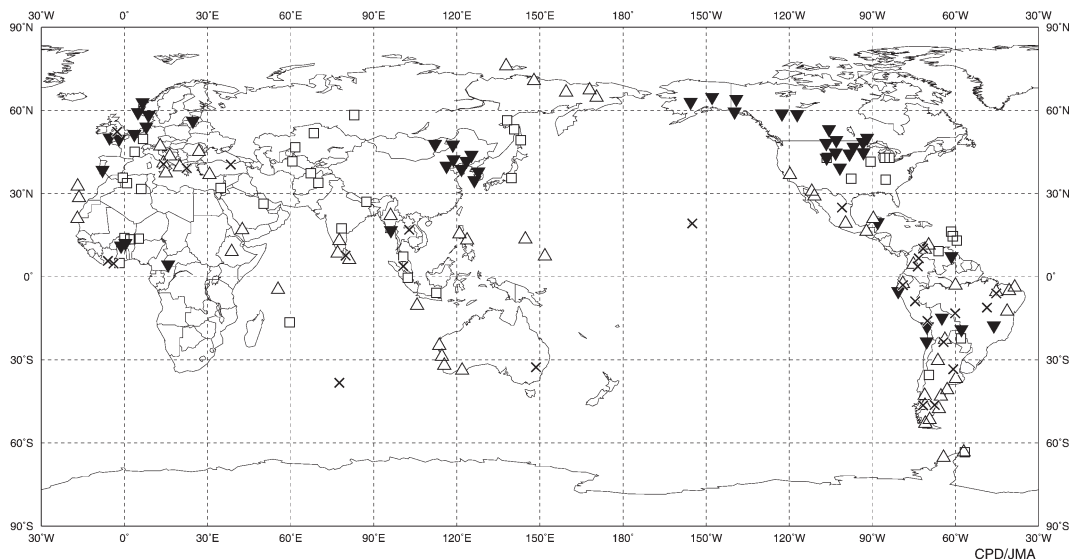
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年4月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2013年4月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2013年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。